令和４年度小平市立小平第三中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

１　調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

（１）教科に関する調査

身に付けておかなかければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを生徒が答える調査です。

（２）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

３　各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析	課題
国語の勉強を将来の役に立つと考えて取り組むことができており、全体の正答率もおおむね良好であった。しかし、情報の扱い方に関する事項と書くことについては正答率が低く、実生活と結びついた学習が不足していることがわかった。	実際の資料から必要な情報を抜き出したり、その情報を要約して言い換えたりする活動がこれまで以上に必要である。また、記述問題の中で根拠を明確にして書くことや、表記の方法、文法事項と合わせた伝わりやすい文章の書き方など、継続して指導する必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

・実社会に即した文章を授業の中で活用していく。
・文章を書くときには、文法的な観点から推敲したり、意見と根拠を明確にして述べたりすることを習慣づける。構成の型を身につけ、様々な内容の記述問題に対応することができる力をつける。
・文法の知識や語彙を適切に活用できるよう、授業以外にも日々の課題や定期考査などでも生徒の状況を把握し、授業改善に役立てていく。

【数学】

状況の分析	課題
連立方程式を解いたり、確率を求めたり、証明で用いられる三角形の合同条件を書くことはよくできている。しかし、証明したり説明する問題への解答の正解率が低く、証明に当たっては無回答率が高い。	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明したり、結論が成り立つための前提を考え新たな事柄を見出し説明したり、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する力を身に付ける必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

授業の中で取り組む課題を工夫する。データの傾向からなぜそのように考えたのかを数学的に表現する場面や、新たな事柄を見出しそれを説明する場面など、発問を工夫する。また、深い学びにつながるような対話をさせるための問いかけを工夫も必要する。

【理科】　　状況の分析　　課題

状況の分析	課題
「エネルギー」「地球」に関する分野では、正答率を下げている。しかし、理科の授業に関する問いには、平成３０年度と比較して理科好きの生徒の割合が62%から66%、大切な教科だという認識が70%から77%と増加した。	理科の授業で観察・実験を通した授業は平成３０年度と比較して令和４年度の方が多く実施されているが、正答率が66%から49%へ低下した。 　知識・理解の分野を繰り返し学習することが必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

〇PC、タブレットの有効利用について不十分である。
〇実験器具等の充実を目指し、体験を通した授業展開の工夫する。
〇スモールステップによる基礎基本の定着学習

【質問紙】　　状況の分析　　課題

状況の分析	課題
自己肯定感が高く、他人のために役立ちたいという生徒が多い。タブレット・PCを使用した授業を望んでいる。また、グループ学習に対する抵抗感もなく、道徳をはじめ、多くの授業場面で主体的な活動を展開している。	他人のためになりたいという思いはあるが、どのような方法で目指すのかという計画性がまだ身についていない。キャリア教育を通して学習（体験）させていく必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

〇　生徒一人一人を認め、褒めて伸ばす教育を今後も継続していく。
〇　善悪の判断ができる力を身に着けさせるために、様々な教育活動を通して自治能力を身に着けさせる教育を展開する。